



# 3つの地域で取り組む 流域治水



京都府京都市 久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会  
防災部会 会長 小嶋 健作

## 1 はじめに

京都市伏見区久我・久我の杜・羽束師地域は、古来より農業が盛んで、近隣を流れる桂川の水利を活かして米や野菜を京に届けていました。一方で水害も数多く発生していたため、蔵の位置を高くする段蔵造りの屋敷が今も残っています。

近年、宅地開発が進み、田畑は減少、自然の洪水調整機能が低下してきました。

水害の歴史を知らない住民が増加するとともに自治会への加入率も低下し、「個々の水防への意識を喚起し、自助・共助の防災活動に取り組むこと」、「水害を防ぐ安心安全のまちづくり」が必要になっていました。

このため、平成19年にまちづくり協議会、平成24年には協議会の中に防災部会を立ち上げました。令和5年現在、防災部会は住民代表、行政、消防、福祉施設、淀川管内河川レンジャー\*（以下、河川レンジャーという）で構成しています。

\* 住民と行政と一緒に川を守り育てていく国土交通省近畿地方整備局の河川事業。河川等に詳しい個人を地域毎に「河川レンジャー」として任命している。

## 2 地域の重要課題

平成25年9月の台風18号によって、桂川久我橋付近で溢水が発生しました。地域の用水路もあふれ、各所で浸水が発生しました。避難場所である小学校までの避難路や校門付近が冠水して避難困難となった他、避難しない住民の存在等の防災上の課題も顕在化しました。

被災後、防災部会では、以下の重要課題に取り組むこととしました。



写真 地域の冠水状況（河村司郎氏提供）

- ①世帯人員・要配慮者の把握
  - ②水災害時の避難場所の検討・確保と周知
  - ③避難所運営マニュアル、防災行動マニュアルの作成
- 特に②について、住民の主体的な避難に向けて様々な検討を重ねていきました。



図 マイ防災マップ

### 3 マイ防災マップの作成

かねてから羽束師地区で活動していた河川レンジャーと連携し、平成28年に京都市・淀川河川事務所の職員を講師として招き、桂川の現状や今後の整備計画等を学ぶ学習会を開催しました。

続いて、防災部会と河川レンジャー、淀川河川事務所職員と一緒にまち歩きを行い、水害時の避難経路を検討してマイ防災マップを作成。平成29年自治会加入全戸に配布し、出水期前にはマップを使った避難訓練を実施しました。令和元年に久我・久我の杜地区も参画し、「久我・久我の杜・羽束師地区マイ防災マップ」として自治会加入全戸に配布しました。

### 4 まるごとまちごとハザードマップ

「まるごとまちごとハザードマップ」は、自らが生活する地域の水害の危険性を実感できるよう、居住地域をまるごとハザードマップと見立て、“まちなか”に水防災にかかわる情報を標示する取り組みのことで、防災部会では行政と話し合いを続け、令和2年度の設置に至りました。



写真 まるごとまちごとハザードマップ

### 5 マイ・タイムライン学習

「マイ・タイムライン」とは、台風などの進行型の災害に対し、自分自身や家族がとる防災行動を時系列にまとめるもので

す。

小学校で「マイ・タイムライン」の学習機会を設けることで自治会未加入世帯への働きかけとなり、発災時には児童がトリガーとなって避難行動を促進できると考えました。

令和3年から役員を対象とした勉強会、3地域の小学校（神川、久我の杜、羽束師）の出前授業を実施しました。防災部会のメンバーが地域の水害の歴史を語るパートを担当するなど、被災の記憶伝承の機会としても活用しています。



写真 小学校でのマイ・タイムライン作成

### 6 その他の取り組み

年1回、住民全員を対象に、浸水地歩行・水没ドア体験など実際の水害を想定した実践的な防災訓練を実施して被災経験の風化を防ぎ、災害発生時の対応を確認しています。

### 7 おわりに

私たちの取り組みは、河川レンジャーによって淀川流域全体に拡がり、その成果が私たちのもとにフィードバックされ、さらなる発展が続いています。

「令和4年度防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会会長賞」の受賞を励みとし、これからも流域治水の取り組みを進めていきます。